



笹小だより No. 11

令和 3 年 2 月 26 日
横浜市立笹野台小学校

「みんなで円くなって・・・」

校長 飯田 雅人

ずいぶんと前のことなので、何の時の話であったかもう忘れてしまったのですが、次のような話を聞いたことがあります。

「6年生を担当した時のことです。卒業式間近に、子どもたちにこんな話をしたことがあります。」「もうすぐみんなは卒業するけれど、みんなに1時間だけ時間をあげます。先生は職員室に行ってくるから、みんなだけで話し合っしてほしいことがあります。それは今まで誰ががんばってきたか自分たちで話し合い、がんばってきた順に並んでほしい。」というものでした。1時間後、その先生が教室にもどったら、子どもたちはみんな話し合っ、教室の中で円くなって座っていたそうです。「みんながんばってきたから、自分たちで順番なんて決められません。だから円くなって座りました・・・。」というお話です。もちろん自分たちで順位を決めるなど、この指導法が正しいかどうか疑問ですし、本当にあった話であったか、何かのたとえ話だったのかも正直いってよく覚えていません。ただ、日頃からこのような子どもたちを育てるといふ価値観で子どもたちを見守っていかなくてはいけないと思い、この話のことを今でもよく覚えています。

日頃の校内での授業の様子を見ていると、クラスみんなが円くなって座って（時には担任の先生も中に入って）何かを話し合ったり、誰かの悩み事を聞いたり、教師の気持ちを伝えたりしている場面を見かけることがあります。私は、話の内容が何であれ、こういう場の設定を見るだけで、なんだかホッとした気持ちになります。

さて2月に長縄集会有りました。学年の発達段階に応じて、各クラスさまざまな工夫をしながら練習に取り組んでいました。目標の立て方次第では、クラスの団結につながることもあれば、長縄が苦手な子どもにとって、時には苦痛の時間になってしまうこともある活動です。長縄集会有、何回跳べるようになったのかの回数を競うだけでなく、その練習の過程のがんばりなどを認めてあげることが必要です。笹野台小の取組の様子を見ていると、日頃の練習の時から集会有本番に臨む直前まで、みんなで円くなって作戦を考えたり、気合を入れたりしている場面をたくさん見かけました。何か不思議な一体感のようなものを感じて、私はとてもうれしく思いました。

3月19日には、120名の6年生が、未来への夢と希望をもって笹野台小学校を巣立っていきます。この3月は、自分を支えてくださった方への感謝の気持ちを持ちながら、卒業までの日々を過ごしてほしいと願っています。

令和2年度も子どもたちを温かく見守っていただいた地域の皆様、そして、保護者の皆様に改めて感謝申し上げます。今後とも保護者・地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。